

令和4年度使用中学校用教科用図書

社会（歴史的分野）

採択理由書

令和3年7月16日

都城市教育委員会

令和4年度使用中学校用教科用図書について

令和4年度使用中学校用教科用図書については、令和3年6月1日付宮崎県教科用図書選定審議会発「令和3年度 答申」により、次のように通知されている。

1 小学校及び中学校（県立以外）、並びに義務教育学校用教科用図書について

(1) 採択について

（本年度の採択）

ア 小学校、義務教育学校（前期課程）用の教科用図書については、本年度採択替えを行わない年であることから、令和元年度に採択したのと同じ教科用図書を採択すること。

イ 中学校、義務教育学校（後期課程）用の教科用図書については、社会（歴史的分野）を除き、本年度採択替えを行わない年であることから、令和2年度に採択したのと同じ教科用図書を採択すること。

社会（歴史的分野）については、令和2年度における採択の理由や検討の経緯及び内容等を踏まえて判断するとともに、以下の(2)から(4)の内容に留意して、適切に採択を行うこと。

(2) 採択の基準について

ア 教育基本法、学校教育法に基づき公示された中学校学習指導要領に示されている各教科の目標を十分達成できるものであり、生徒の発達段階に応じた指導を行うために、系統的に編集されているものであること。

イ 教材の内容等が充実しており、個に応じた指導に対応できるなど指導の充実につながるものであること。

ウ 指導者及び生徒にとって、使用上の利便性があるとともに、生徒にとって分かりやすいものであること。

エ 地域の願いや思い、生徒の実態等を考慮すること。

(3) 研究資料の作成について

研究資料の作成については、以下の内容に留意すること。

ア 研究資料は、新たに発行されることとなった社会（歴史的分野）の種目のみ作成すること。その際、令和2年度、採択地区協議会に置いた「専門委員」の研究内容等も活用すること。

イ 研究資料は、中学校用教科書目録に登載され、かつ見本本として送付された中学校社会（歴史的分野）の全ての教科用図書について作成すること。

ウ 教科用図書の調査研究を行うに当たっては、明確な観点を定めて行うこと。

エ 調査研究の観点としては、教科等の目標の達成及び単元（題材）や教材の構成・配列等、内容や指導の充実、利便性の向上等の角度からこれを定めること。

オ 調査研究の資料は、観点ごとに特徴を簡潔に記述し、採択に当たっての参考となるものであること。

(4) 採択の方式について

- ア 採択地区内の各市町村教育委員会は、採択地区協議会を必ず設けること。
- イ 採択地区協議会には、教科用図書の研究のために「専門委員」を置くこと。
- ウ 「専門委員」は、県教育委員会が作成した研究資料等を活用して、採択の基準に基づき教科用図書の研究を行い、採択地区協議会に報告すること。
- エ 採択地区協議会は、県教育委員会の作成した研究資料等を参考にするほか、採択地区協議会に置いた専門委員の研究報告をもとに、中学校社会（歴史的分野）のうち1種を選定すること。
その際、各教科用図書の特徴を踏まえるとともに、各地域の願いや思い、生徒の実態等を考慮するなど、最終的な選定理由を明確にした選定にすること。
- オ 採択地区内にある市町村教育委員会は、採択地区協議会において選定した教科用図書と同一の教科用図書を採択すること。

そこで、本地区では、北諸県採択地区協議会及び専門委員会を設け、県の示す「採択の基準」のア～ウに従うとともに、基準エについて本地区の課題を踏まえた基準を新たに1つ設定した上で、4名の専門委員に中学校社会（歴史的分野）の教科用図書について、令和2年度の研究内容等も活用しながら研究を行わせ、採択地区協議会において、調査研究報告を精査し、令和4年度使用中学校用教科用図書の選定を行った。

北諸県採択地区協議会の選定結果をもとに、都城市教育委員会にて協議し、採択を行った。

1 令和4年度使用中学校用教科用図書 都城市教育委員会 採択結果

No.	種 目	書 名	発 行 者	現 採 用 教科用図書
1	社 会 (歴 史)	新しい社会 歴史	東 京 書 籍	同左

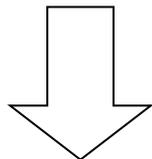
2 教科用図書 採択理由

次ページに記載。

歴史

【現採択】

東京書籍



【令和3年度採択】

東京書籍

【送付見本本】

- 1 東京書籍
- 2 教育出版
- 3 帝国書院
- 4 山川出版社
- 5 日本文教出版
- 6 自由社
- 7 育鵬社

【採択教科用図書の特徴】

- 1 歴史的分野の目標を達成するために、章の構成は、単元を貫く課題をつかむ、課題を追究する、課題を解決するという流れで構造化されており、見開きで学習課題が設定され、「歴史にアクセス」などで追究し、最後に、学習内容の定着を図る「チェック&トライ」に取り組めるような構成・配列の工夫が見られる。
- 2 生きて働く「知識及び技能」を習得するために、学習したことを確認できる「基礎・基本のまとめ」、技能を身に付ける「スキル・アップ」などの工夫が見られ、未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために「思考ツール」を活用してまとめたり、コラム「もっと歴史」で思考を深めたりするなどの工夫が見られる。
- 3 QRコードを読み取り、デジタル資料を活用できたり、「チェック&トライ」で学習を振り返ったあとに、「探究のステップ」に取り組めたりするなどの工夫が見られる。

主な採択理由

- 事象間の因果関係について考察するために、「見方・考え方」や「読み取る」で、情報を集め、読み取り、まとめる活動を位置付けるなど、生徒の学びが深まるような工夫が見られる。また、各時代の大まかな特色や流れを理解する力を身に付けるために、資料の読み取りで各時代の理解を深める特設ページ「資料から発見！」を設定する工夫が見られる。
- QRコードの数が多く、表示されるデジタル資料も充実している。